

こども学科の学びを紹介します。理想の「せんせい」を目指して、日々さまざまな学修に取り組んでいます！

科目： こどもと自然（保育コース・教育コース）



前期集中講義「こどもと自然」では、こどもが身近な自然環境に親しみ、触れ合う中でどのようなことに興味・関心を持ち、自らの生活に取り入れて成長していくかを学習します。自然探索活動やじゃがいもの栽培と収穫、紙飛行機遊び、いろいろな虫さがしなど、こどもに体験させたい環境「自然」の内容を実践し理解します。「紙飛行機」の講義では、全国チャンピオンの講師から仕組みと工夫の直接指導を受け、自ら紙飛行機を飛ばします。「じゃがいも収穫祭」では、江別市内の保育園児さんと一緒に芋掘り活動を楽しみます。自然体験活動がたっぷりの講義です。

（担当：関 敏明、浅野 勇、角田裕哉、笠師千恵）

科目： こどもの防犯と防災（保育コース・教育コース）

こどもの防犯と防災では、こどもに関係する危機管理／安全確保について、具体的な場面設定を行い、思考・考察しながら理解を深めます。防犯では、主として不審者対策と接触対策を取り上げます。不審者対策は、見た目ではなく、行動・様子の変化・変容に着目することを重要とします。接触対策は、自転車や自動車との衝突が、どのような場所で生じやすいか、その傾向をつかむことを重要とします。防災では、野外活動の危険事故（可能性と対策）と自然災害の軽減を取り上げます。野外活動では、具体的な外遊び（夏季や冬季）から、どのような危険事故が生じやすいか予測し、その対策を考えることを重要とします。自然災害の軽減では、とくにこどもが見誤る危険について、保育者等（大人）が理解できることを重要とします。

いずれも共通することは、どのような危険（可能性）が、どのような場所・場面で生じやすいか、それを回避するには、どのような対策を講じると有効か、体験的な学修を通じて知識や技能を深め、保育者（小学校教員）となり現場で活かしてもらえるよう工夫しながら展開しています。

課題（例）：夏季の屋外遊びの場合、熱中症対策として、どのような事が考えられるか、書いてみましょう。

【学修記録の例】

○注意喚起、帽子をかぶる、時間帯の調整（高温時をさける）、水遊びの水溫調整・確認、屋根のあるところで行う、水分補給、休憩を入れる、冷却用品の準備、病院の確認

*履修学生は、教育実習や保育所実習の経験があったため、幅広い視点から対策を思考することができています。

記述した内容は、原文をそのまま掲載しています。

（担当：菊地達夫）

